



写真2 | ダイニングからリビング側を見る。写真左側の開口部は建具枠が見えないため、外部風景との内外の連続性が強調されている

図4 | 開口部B平面詳細図

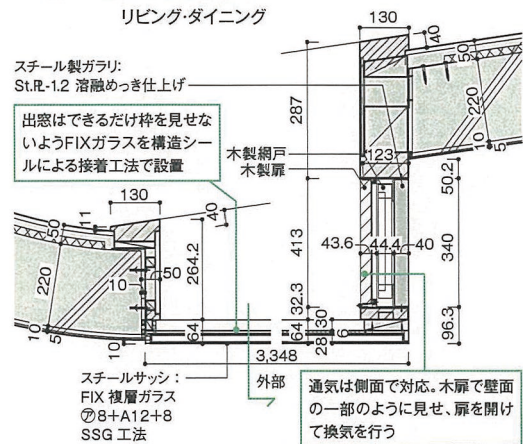
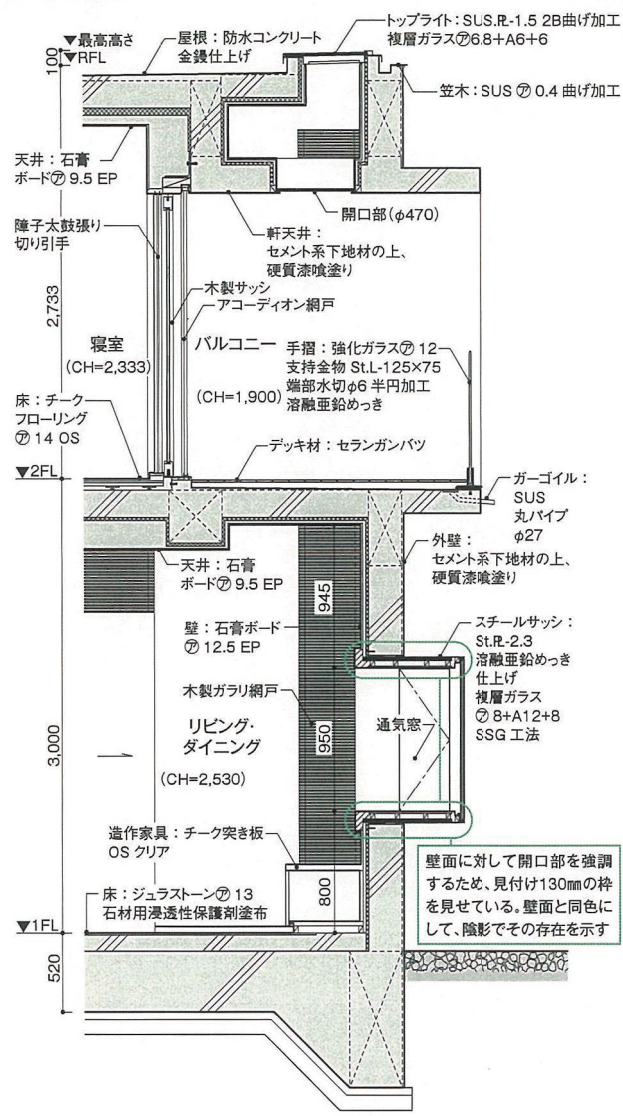


写真3 | リビングから景色を見るための開口部。壁面に光が落ちることで、上部アンライント吹抜けの存在が分かる



吹抜け上部には曲面壁に沿ってトップライトも設けられ、壁面に沿って落ちる光が壁の前の空間を照らしたし、爽やかな風とともに、居心地のよい場所をつくりだしている。【矢板久明】

図3 | 断面図



景観用と通風用に分ける

景色を美しく見せたい開口部で通風も確保しようとすると、可動窓を用いなければならず、サッシ枠など見せたくないものが見えてしまう。開口部を景観用と通風用に分ければ、この問題を解決できる。

この建物では敷地のコーナーに、I字形の2層分の曲面壁を設置し、壁に沿って幅400×1千400mmの細長い吹抜けを設け、その両端に高さ2層分(約53m)のガラスルーバー窓を設置している【図2】。この窓の主な目的は通風である。風のある日だけでなく、無風時にも2層分の高低差による重力換気が可能となっている【図2】。

一方、同じ壁に、前面道路側のサクラ並木の景色を切り取るための開口部も設けた。枠が極力見えないよう、構造シールを用いてガラスを枠に張り付ける納め方になっている。出窓となっており、持出し枠にガラリとブラッシュ戸による通風窓がある【図3、4】。

図1 | 1階平面図

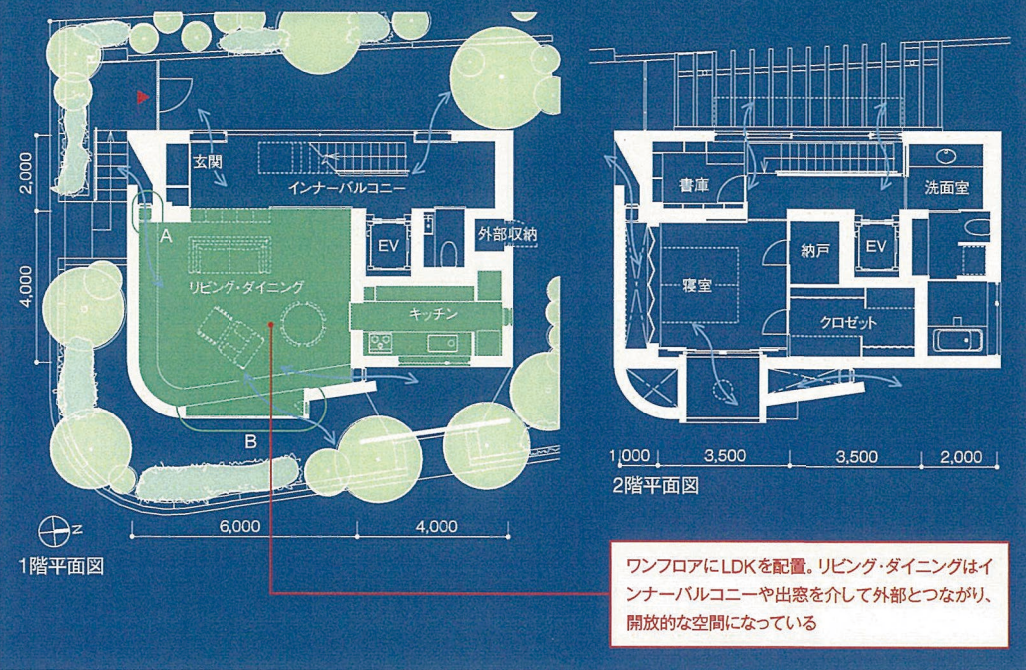


図2 | 開口部A詳細図

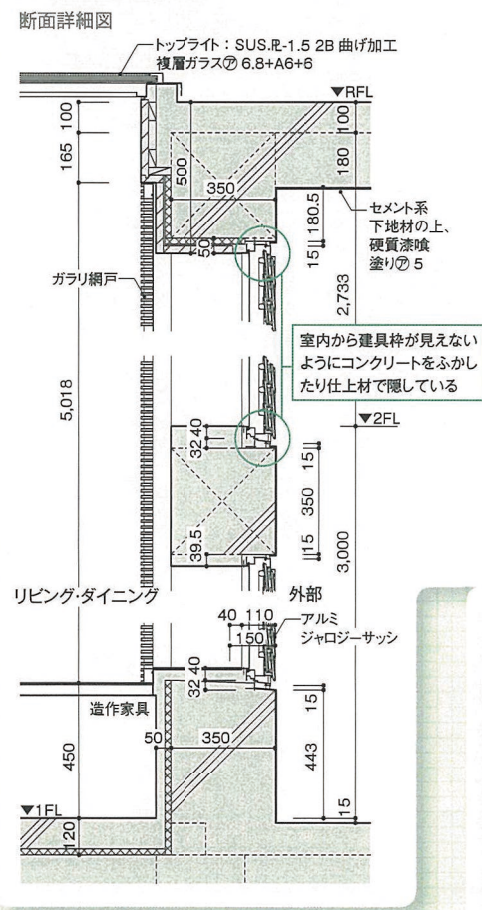


写真1 | 前面道路から建物を見る。右側にサクラ並木が見える

LDK 開口部は目的別に分けて考える